

平成25年度 都道府県等 栄養施策担当者会議
2013. 7. 23. 厚生労働省

資料4

平成25年度都道府県等
栄養施策担当者会議
H25.7.23

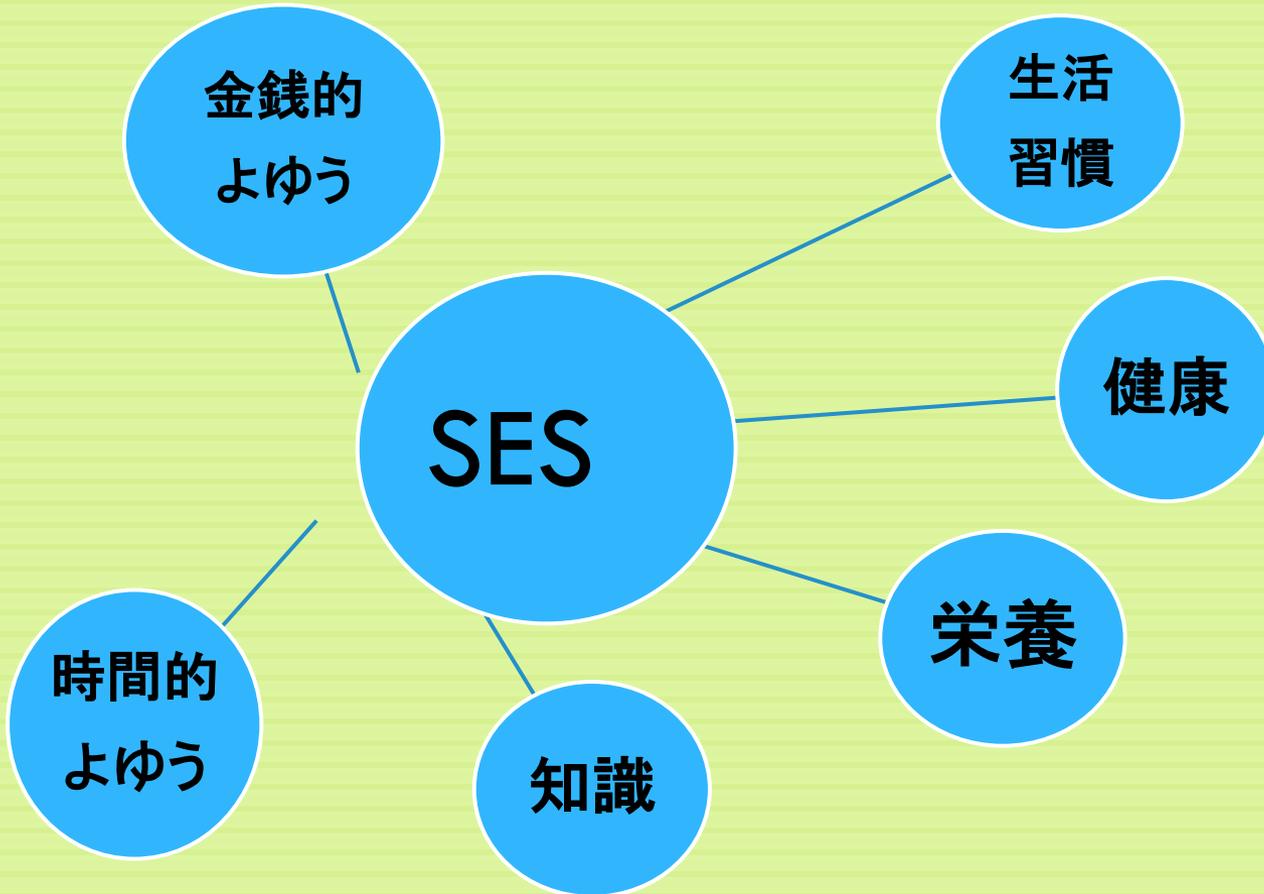
人口構造と社会経済状況の変容 と 社会保障制度 (補足資料)

阿部 彩

(国立社会保障・人口問題研究所)

社会経済階層

(Social Economic Status: SES)

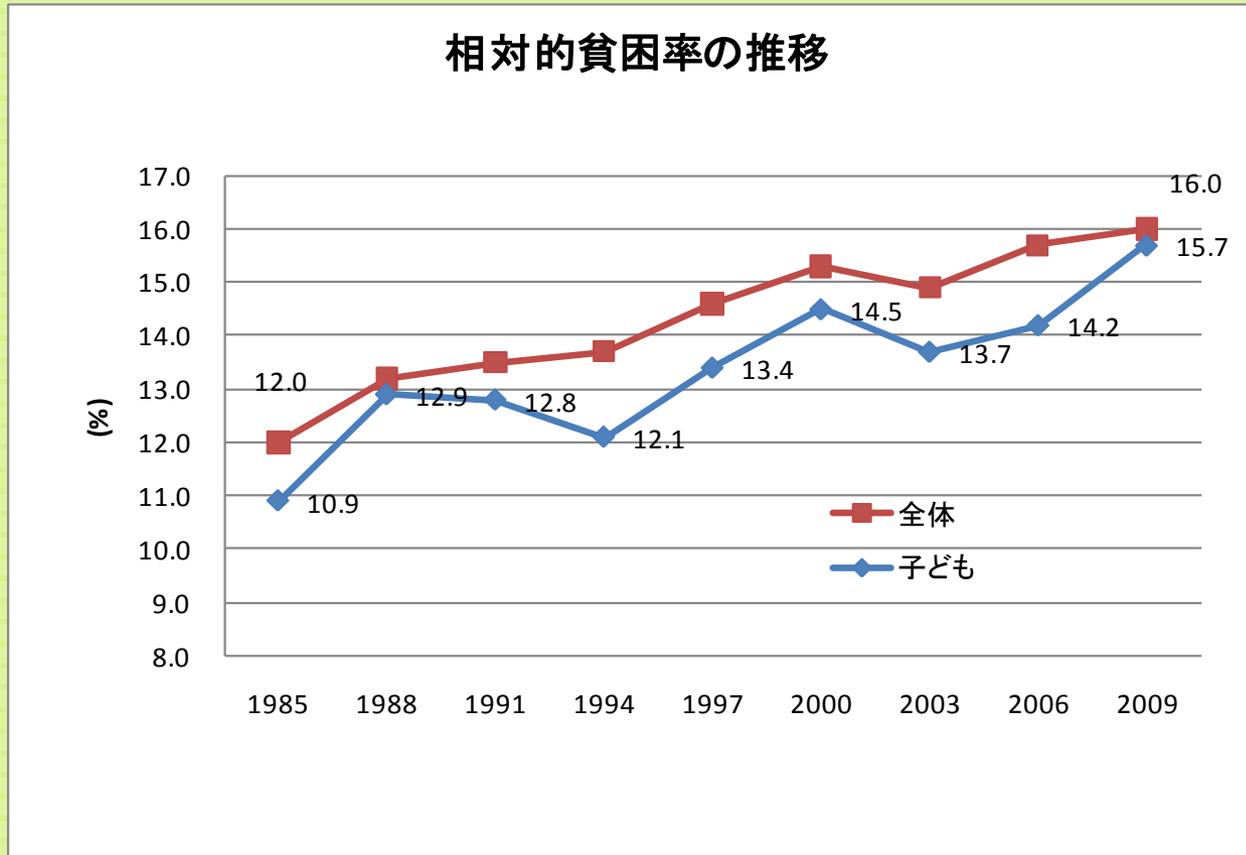


個人、個人の背景としてあるSESの影響を見逃してはいけない！

社会経済状況の変化

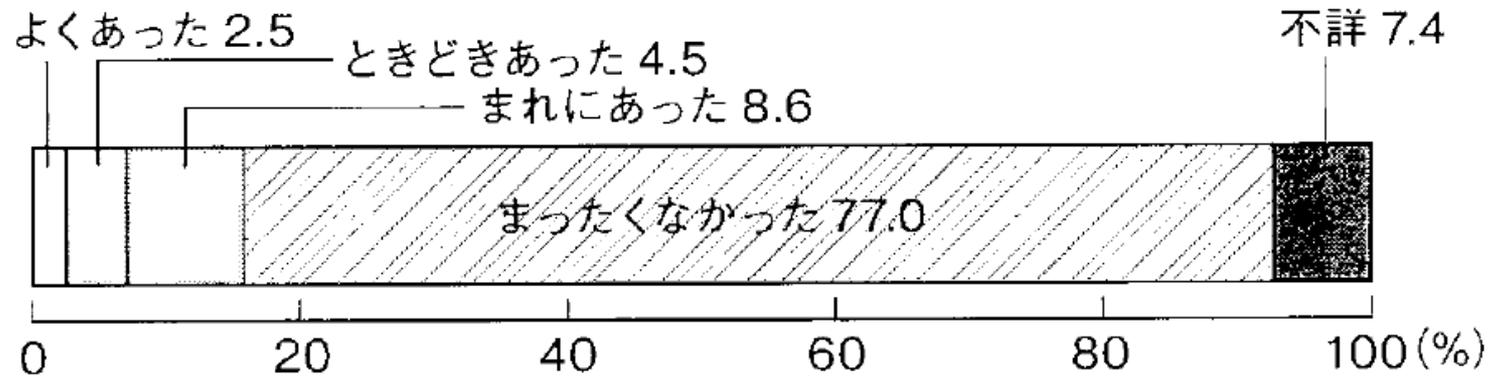
日本の貧困率の推移

全国民の6人に1人は相対的貧困の状態



- 人数では約2040万人。うち、子どもは330万人(子どもの定義は18歳未満)
(人口統計H21度)

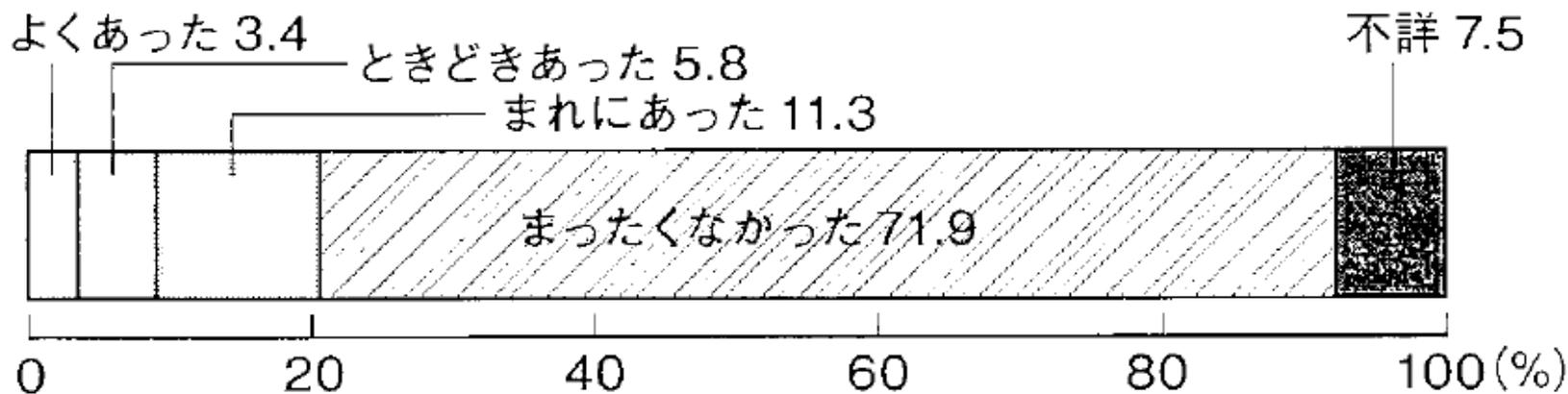
食料が買えなかった割合



図表 1-1 「過去 1 年の間に家族が必要とする食料が買えなかったことがある」世帯の割合

- 約15%の世帯が経験

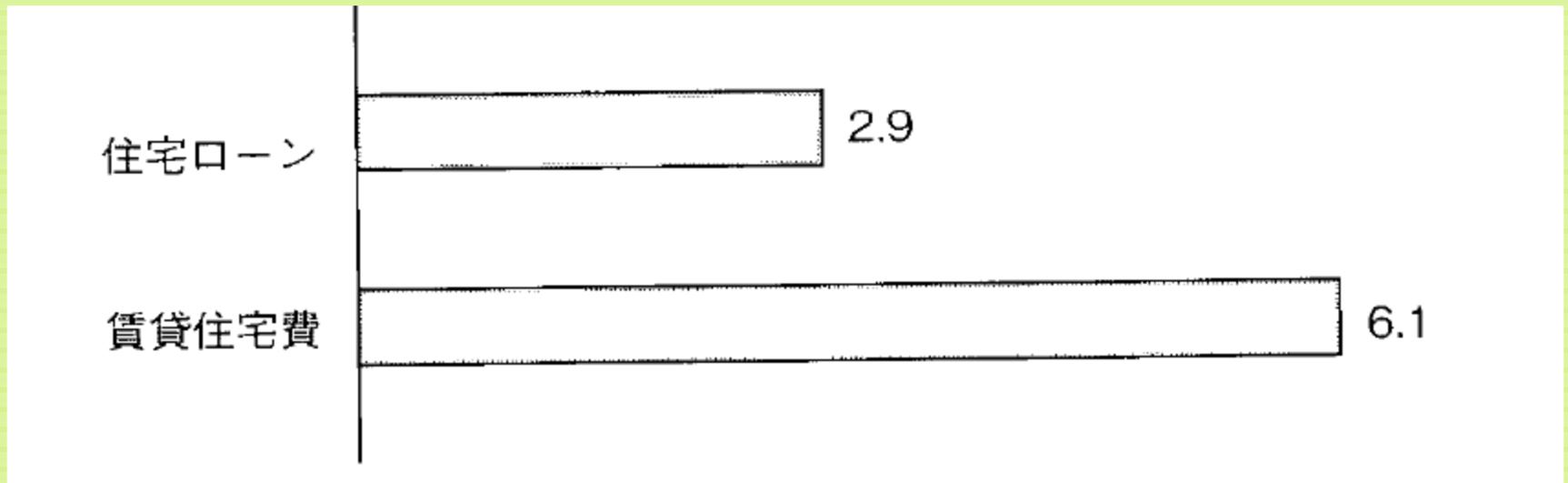
衣服が買えなかった割合



図表 1-4 「過去 1 年の間に家族が必要とする衣料が買えなかったことがある」世帯の割合

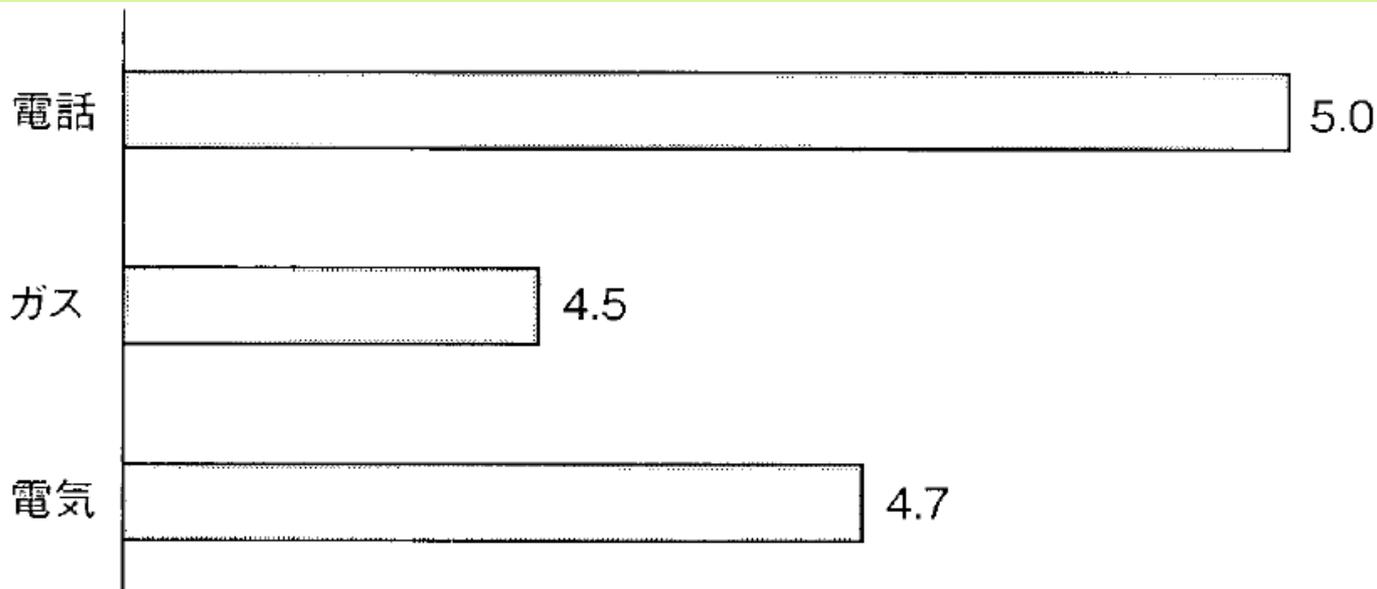
- 約20%の世帯が経験

住宅の問題：過去1年の間に滞納経験があった世帯の割合(%)



注：当該支出がある世帯の中での割合

公共料金の滞納の経験：



図表 1-6 電話、ガス、電気料金について、過去 1 年間に滞納経験のあった世帯の割合 (%)

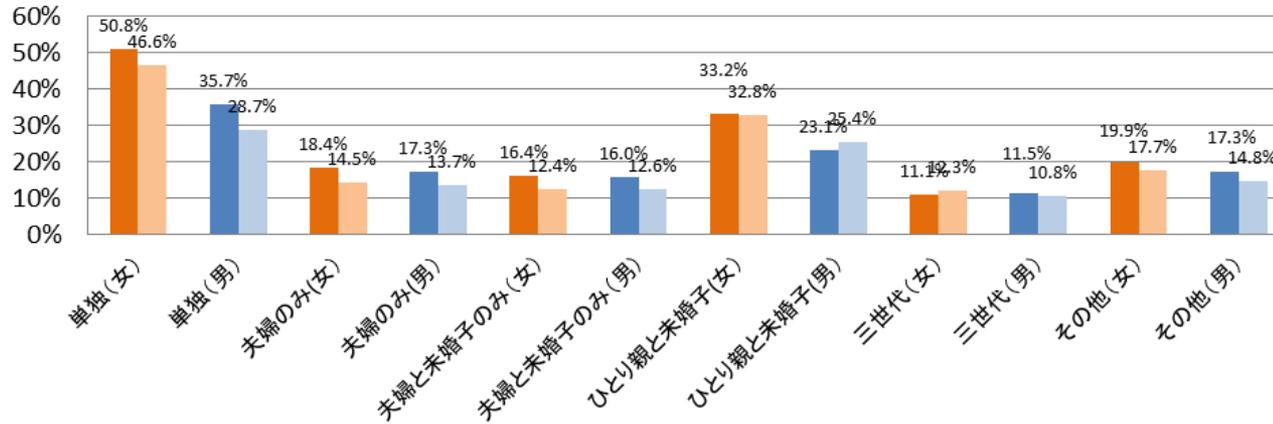
注：当該支出がある世帯の中での割合

日本の貧困率は1985年から一貫して 上昇している

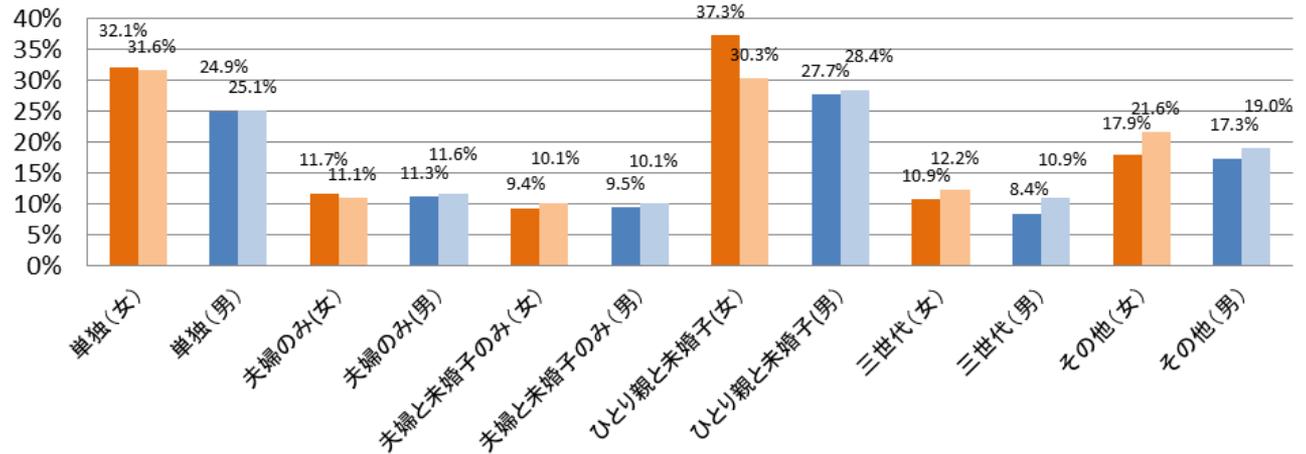
- 近年に急激に悪化したわけではない
 - 好景気でも悪化し続けている
 - 貧困率の上昇の要因は:
 - ① 勤労世代の所得分布の悪化
 - ② 高齢化
 - ③ 世帯構造の変化
- ⇒ なにもしなくても貧困率は上昇する

単身世帯(高齢、勤労世代)の高い貧困率

高齢者(+65)の世帯構造別 貧困率(*): 2007(濃)、2010(薄)



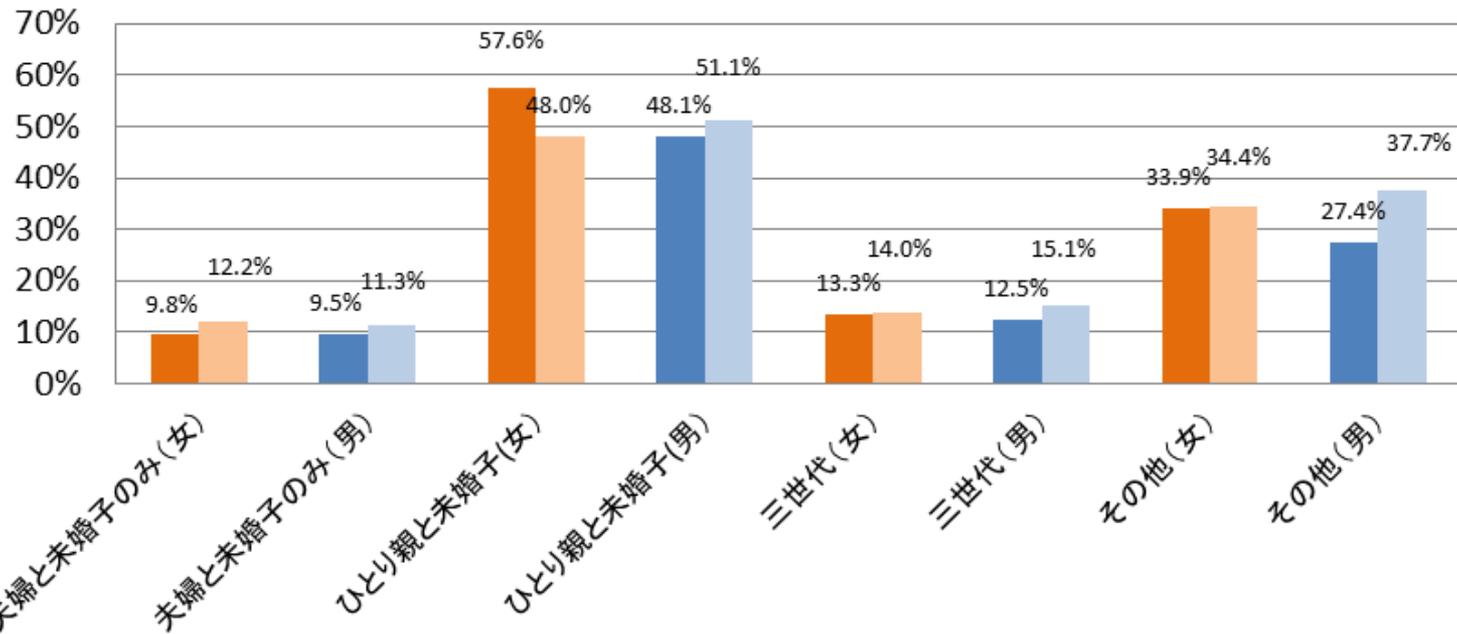
現役世代(20-64)の世帯構造別 貧困率: 2007(濃)、2010(薄)



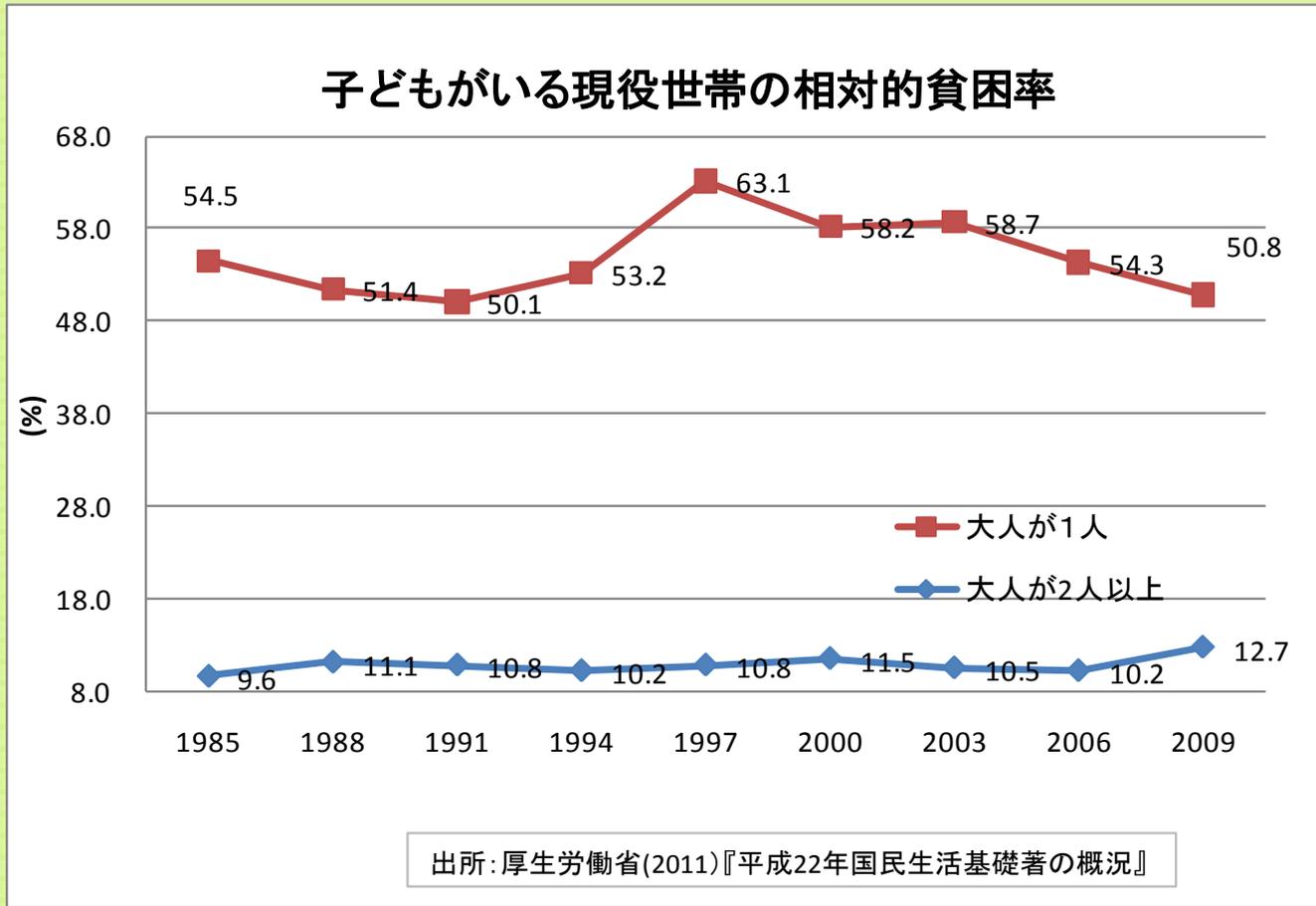
依然と高い
「一人親世帯」

子どもの貧困率

子ども(20歳未満)の世帯構造別 貧困率: 2007(濃)、2010(薄)



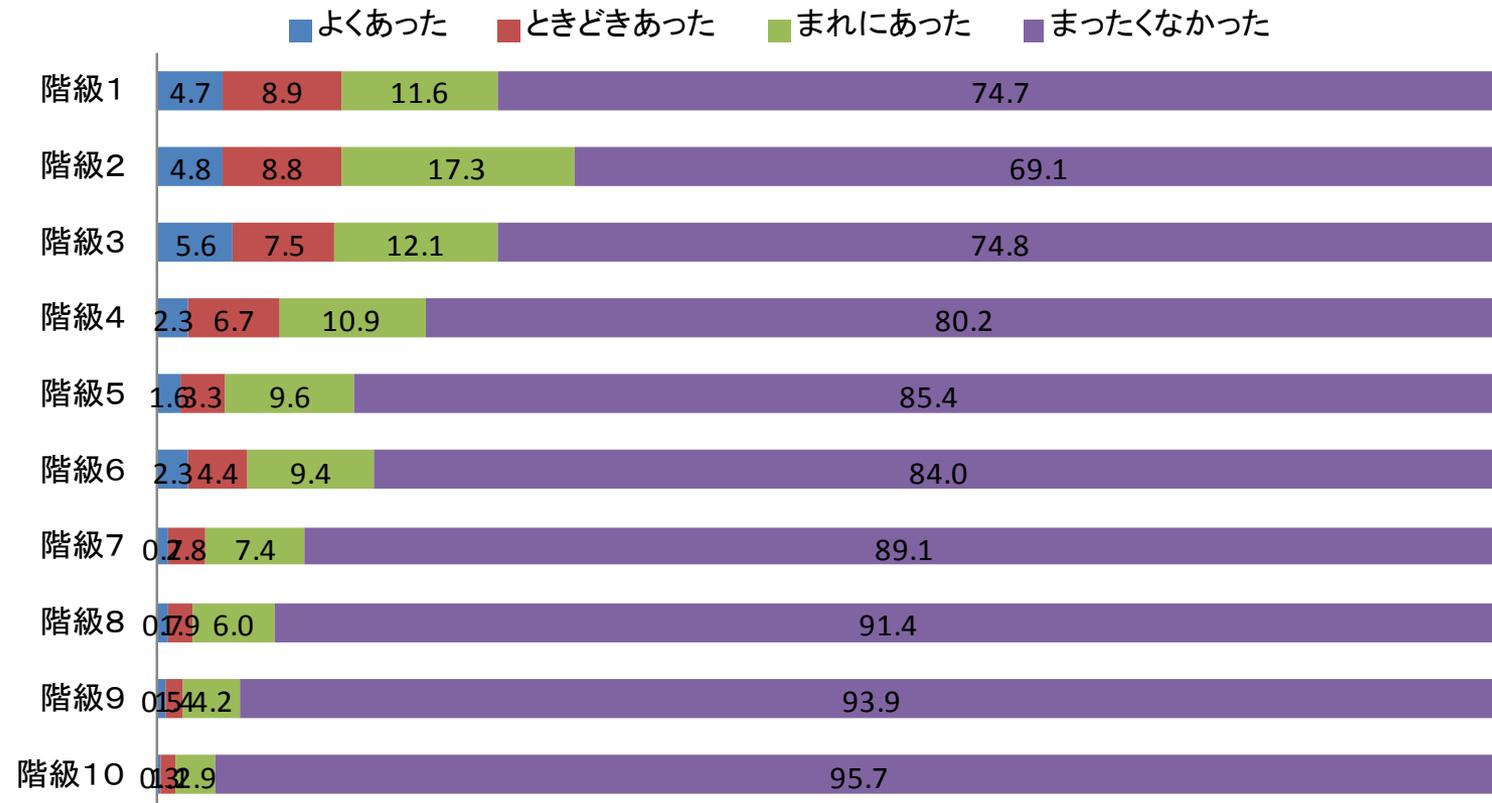
ひとり親世帯の貧困率の高さ



- 依然として50%を超える

食料が買えなかった経験：所得階級別

過去1年間に家族が必要とする食料が買えなかった経験：
所得階級別



食料が買えなかった経験：世帯類型別

	総数	よくあった (%)	ときどき あった (%)	まれに あった (%)	まったく なかった (%)	不詳 (%)
総数	10,766	2.5	4.5	8.6	77.0	7.4
子どもがない世帯						
単身世帯						
単独高齢男性	255	3.9	8.6	12.2	65.5	9.8
単独高齢女性	709	3.0	4.8	9.2	77.0	6.1
単独非高齢男性	994	4.2	5.3	7.5	73.4	9.5
単独非高齢女性	697	3.3	6.3	10.8	69.0	10.6
夫婦のみ世帯						
夫婦ともに高齢者	931	1.2	2.8	7.6	84.1	4.3
夫婦の一方が高齢者	341	2.1	4.7	8.2	76.8	8.2
夫婦ともに非高齢者	1,228	1.7	3.6	5.0	76.5	13.3
その他世帯						
高齢者のみ世帯	108	1.9	1.9	8.3	77.8	10.2
高齢者以外も含む世帯	2,878	1.6	3.7	8.4	76.8	9.4
子どもがある世帯						
二親世帯（三世代）	500	2.2	3.2	8.4	84.4	1.8
二親世帯（二世代）	1,786	2.6	5.3	9.9	80.7	1.5
ひとり親世帯（三世代）	95	4.2	3.2	8.4	83.2	1.1
ひとり親世帯（二世代）	216	8.3	11.1	19.0	58.8	2.8
その他有子世帯	28	3.6	14.3	10.7	67.9	3.6

食料が買えなかった経験：地域別

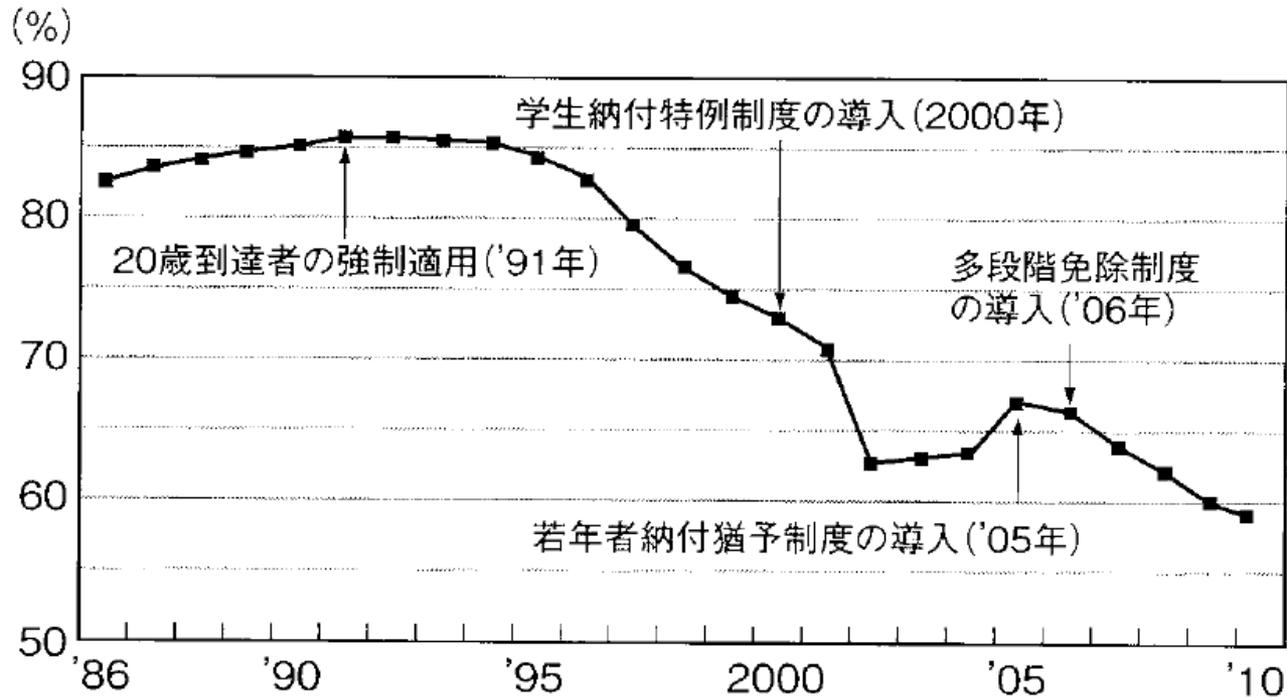
地域ブロック	総数	よくあった た (%)	ときどき あった (%)	まれに あった (%)	まったく なかった (%)	不詳 (%)
総数	10,766	2.5	4.5	8.6	77.0	7.4
北海道	485	3.9	5.4	11.8	72.8	6.2
東北	737	3.3	5.2	11.3	73.5	6.8
北関東	701	1.6	4.6	6.1	79.7	8.0
東京圏	2,674	2.8	3.4	7.9	79.2	6.8
中部・北陸	1,015	2.0	3.8	7.6	80.4	6.2
中京圏	1,108	1.5	4.8	8.8	79.0	6.0
大阪圏	1,370	2.1	4.8	8.0	76.3	8.8
京阪周辺	201	2.5	4.5	11.4	70.1	11.4
中国	743	2.7	5.0	7.1	77.3	7.9
四国	346	2.6	3.8	6.4	76.9	10.4
九州・沖縄	1,386	2.6	6.1	11.1	72.4	7.8

貧困と身体的発育の関係： 7歳時点での身長・体重：貧困年数別

第7回	全サンプル					
貧困経験年数	n	身長 (0.1cm)	n	体重(100g)	n	肥満率
なし	20979	119.215	21340	22.066	20890	5.21%
1回	3305	119.265	3392	22.158	3281	6.37%
2回	1234	119.027	1269	22.166	1227	6.66%
3回	698	119.007	728	21.981	694	6.20%
4回	426	118.597	437	22.008	425	7.29%
5回	340	119.321	352	22.384	339	8.55%
総数	26982		27518		26856	

- 貧困経験年数(7歳までの時点で世帯所得が貧困線以下であった年数)が多いほど、肥満率が高い

社会保険からの脱落



図表1-7 国民年金の納付率の推移(1986-2009年)

出所：社会保険庁(2011)「平成22年度の国民年金保険料の納付状況と今後の取組等について」

- 財政からの問題だけでなく、本人の社会的排除の問題

病院にいけない人々

- さまざまな調査によって、かなりの人々は「病院に行くべきと思ったが、行けなかった」経験がある。
- 過去1年間における受診抑制の割合
 - 東京近郊4都市 25-50歳 47%
 - 中部、65歳以上 12%
 - 全国、20-89歳 43%
 - 全国、20歳以上 高所得層 16%、
低所得層 40%

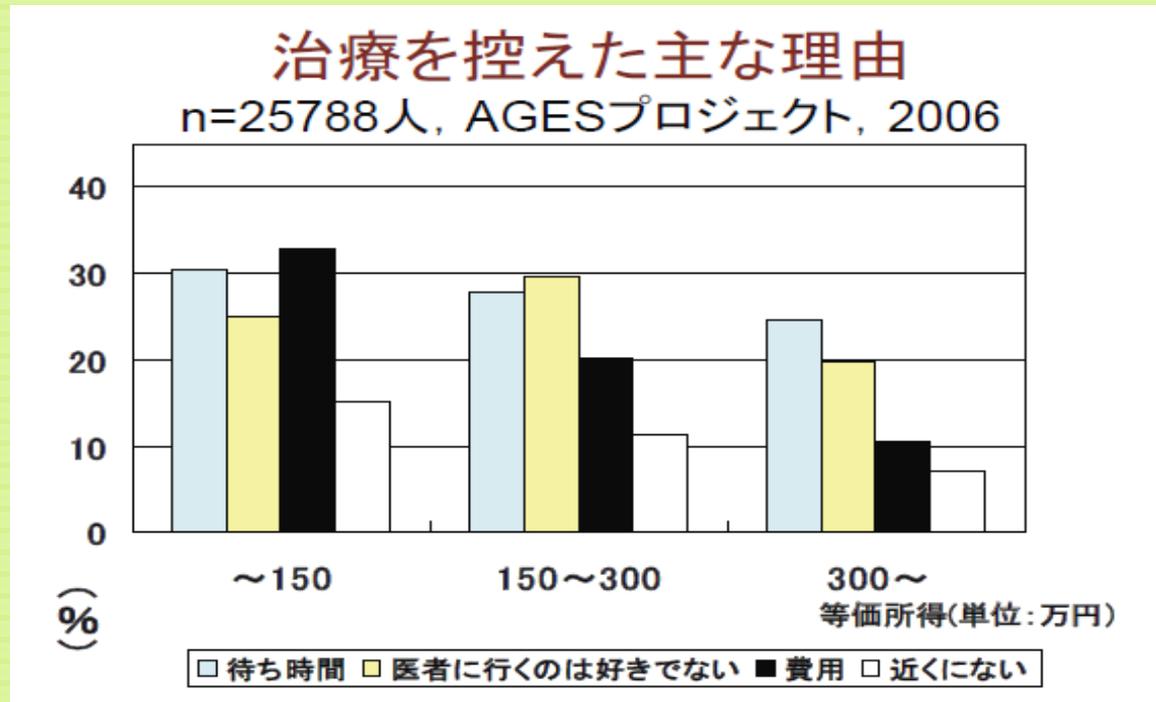
病院に行けない理由(勤労世代、都市部)

表3 受診抑制の理由

	全体	男性	女性	男女差
1 待ち時間が長い	30%	30%	30%	X
2 費用がかかる	37%	35%	39%	*
3 医療機関が近くにない	1%	1%	2%	X
4 どの医療機関に行ったらよいかわからない	5%	4%	5%	X
5 交通手段がない	0%	0%	1%	***
6 病院に行くのは好きではない	22%	25%	20%	***
7 忙しくて時間がない	51%	55%	47%	***
8 病院へ行くほどの病気・ケガではないと判断した	67%	69%	66%	X
9 保険証がない、または使えない	1%	1%	1%	X

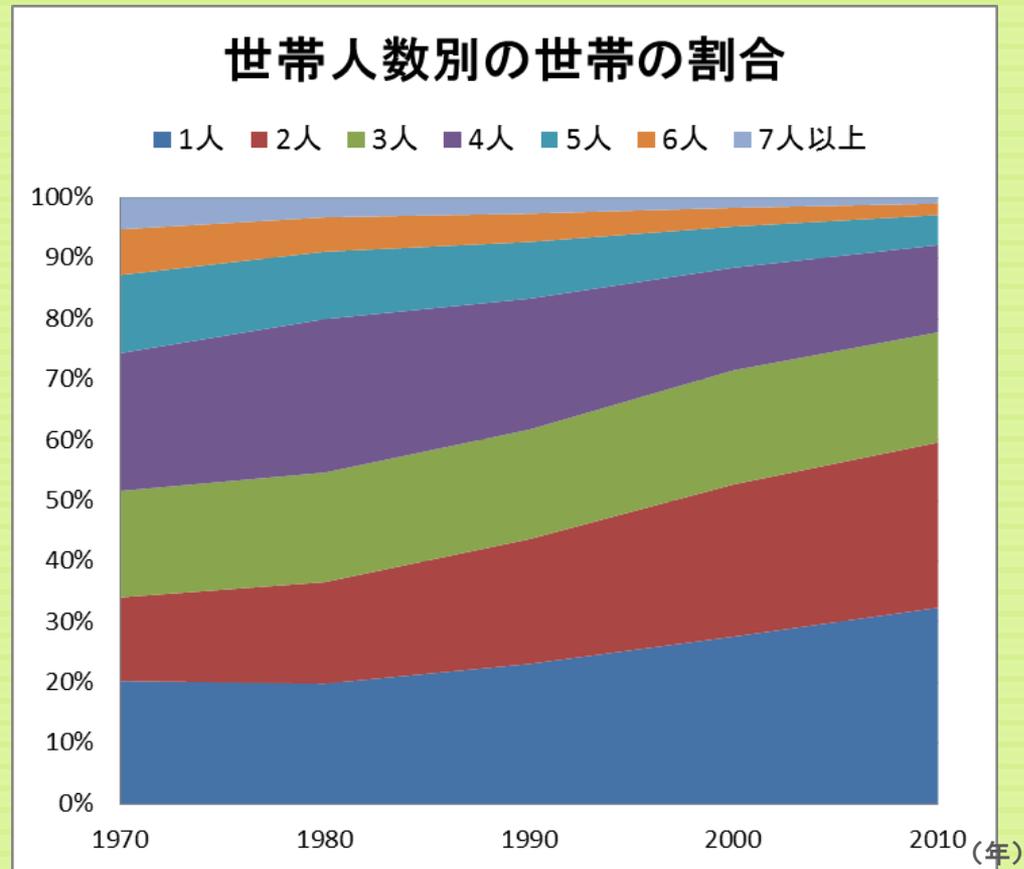
(注) 受診抑制しているとした回答者の中で、その理由を挙げた人の割合

病院に行けない理由(高齢者):中部



世帯構造の変化

単独世帯はもはや最も多い世帯人数



- 2010年 32% (1970年 20%)

高齢者(65+)の4分の1は単独

表7-20 家族類型別65歳以上の親族のいる一般世帯数:1970~2010年

年次	一般世帯数 (1,000世帯)				割合 (%)			
	総数	単独世帯	夫婦世帯	その他	総数	単独世帯	夫婦世帯	その他
1970	5,913	437	593	4,883	100.0	7.4	10.0	82.6
1975	6,921	630	906	5,385	100.0	9.1	13.1	77.8
1980	8,124	881	1,273	5,970	100.0	10.9	15.7	73.5
1985	9,284	1,181	1,651	6,452	100.0	12.7	17.8	69.5
1990	10,729	1,623	2,218	6,888	100.0	15.1	20.7	64.2
1995	12,780	2,202	3,042	7,536	100.0	17.2	23.8	59.0
2000	15,045	3,032	3,977	8,036	100.0	20.2	26.4	53.4
2005	17,204	3,865	4,779	8,561	100.0	22.5	27.8	49.8
2010	19,338	4,791	5,525	9,022	100.0	24.8	28.6	46.7

総務省統計局『国勢調査報告』による。各年10月1日現在。